

2022年10月号



# 復活教会便り

電話 082-227-1553

献金用口座（ゆうちょ銀行）日本聖公会広島復活教会 店名五一八（518） 普通 1377700



## み言葉の礼拝について

8月21日(日)に「み言葉の礼拝」が行われました。私が新型コロナウイルス感染症に罹患したことによって生じた想定外の「み言葉の礼拝」でした。しかし、当日3名の信徒さんの共同司式で主日を守ることができました。何故なら、コロナ禍で司祭が聖餐式を執行できない状況になることを想定して、有志のメンバーが「み言葉の礼拝」の学びを続けてくださっていたからです。そういう意味では、想定外ではありましたが、想定内の出来事でした。当日は、信徒さんによる司式と、写真にもある通り私が事前に録画した動画による説教を流していただきました。そのため、ある信徒さんから「み言葉の礼拝というのは、聖餐のない礼拝だと理解しました」と感想をいただきましたが、そもそも「み言葉の礼拝」とは何なのでしょう？



「み言葉の礼拝」は、2012年に日本聖公会で正式に承認された礼拝です。これは、司祭の人数が減少していくに伴って、主日に聖餐式が行われない教会が増えたことが主な理由です。「み言葉の礼拝」が完

成するまでは、聖餐式がない教会では「朝の礼拝」が行われていました。もちろん、朝の礼拝も祈禱書に載っている大切な礼拝です。しかし、「主日に読む聖書箇所」と「朝の礼拝で読む聖書箇所」が違うという問題がありました。つまり、聖餐式がない教会と聖餐式がある教会では、読まれる聖書箇所が違っていたのです。しかし、主日は「イエス・キリストの復活にまでさかのぼる根源の祝日として、すべての祝日に優先して守られる(祈禱書1頁)」となっています。つまり、私たちキリスト者にとって、日曜日の礼拝は「優先して守るべき」祝いの日なのです。そこで、聖餐式で読まれる聖書箇所を読むことを優先するために、「み言葉の礼拝」が作成されました。ここで、皆さんがお持ちの祈禱書をご覧ください。聖餐式の部分を見てみると「参入(162頁)」とか「特禱(164頁)」と表題がついていることが分かります。しかし、二つだけ異なる文体で表題が記されているものがあります。それは「み言葉(165頁)」と「聖餐(171頁)」です。実は、聖餐式は「み言葉」と「聖餐」という二つの部分を通して、神さまと出会うという構造を持っています。その二つに優劣があるのではなく、神さまと出会うために等しく重要な要素だと考えられています。つまり、「み言葉の礼拝」は「イエスさまのご復活を祝う主日を守るための、み言葉を中心とした礼拝」として作られたものなのです。

今、多くの教会で「み言葉の礼拝」が行われています。また、祈禱書改正委員会で「み言葉の礼拝の日の方が出席者が多い教会がある」という話を聞きました。「み言葉」に耳を傾け、神さまと出会う礼拝、そこに新たな可能性があるかもしれません。

## 宣教とは何か？②

『だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』(マタイ 28:19~20)

前回は、「宣教の 5 指標」の概要を述べさせていただきましたが、今回は「**1. 神の国のよき知らせを宣言すること**」「**2. 新たな信徒を教え、洗礼を授け、養うこと**」について考えたいと思います。この二つは、5 指標の中心的な指標であると考えられています。何故ならば、聖書によるとイエスさまは宣教の始めの**福音を宣べ伝えること**を強調しており(ルカ 4:18)、また復活の後には弟子たちに**洗礼を授け、教えること**を促したからです(マタ 28:18~20)。しかし、「福音を宣べ伝える」ことも「洗礼者を増やす」ことも簡単なことではありません。私たちが、①何を「伝え」、②「教える」ことが求められているのか、考えてみたいと思います。

宣教とは何を伝えることなのか。5 指標には「良き知らせ」とあります。けれど、具体的に何を伝えたらいいかは想像が付きません。そこで聖書を見てみると、イエスさまは「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい(マコ 1:14)。」と伝えていたことが分かります。つまり、宣教について考える上では、「神の国」がキーワードになるのです。イエスさまが神の国という言葉を使う時には、「**神さまは今も私たちと共にいて働いてくださっている**」という意味が込められています。つまり、私たちは、神さまが今この瞬間も共にいてくださるということを伝えていくことが求められているのです。

しかし、私たちは神さまがともにいることを“教える”のを困難に感じます。例えば、コロナ禍で苦しむ人を前にし、また大切な人を失った方を前にして、どのようにして「神様が共にいる」と伝えることができるでしょうか。

ある時、ある方のご自宅に訪問させていただきました。体が思うように動かないこと。苦しい胸のうち、

いろんなことを語ってくださいました。しばらく、二人で話をした後、お祈りを私とその方でそれぞれ行いました。すると、その方は「神様に感謝します」と盛んに祈られるのです。その方のお体の様子を聞いている時、私にはかける言葉がありませんでした。どのように励ましたらいいのかも分からず、勇気づけることもできず時間が過ぎていってしまいました。しかし、その方は病床にあっても、苦しみの中にあっても確かに神さまの存在を見続けていたのです。その方の、神さまを信頼する姿に圧倒され、私が励まされたことを覚えています。

私は、新たな信徒を教えるということの本質的な意味は、「学び合う共同体」になっていくことではないかと考えています。知識や経験を教えるのではなく、教会の家族として人生を分かち合って、学び合っていく。そして、その人の背後に働く神さまの姿を見つめていく。そのことが宣教を考えるヒントになるのかもしれない。

### 宣教の 5 指標

- ① 神の国の福音を宣べ伝えること。
- ② 新たな信徒を教え、洗礼を授け、養うこと。
- ③ 愛の奉仕によって人間の必要に応えること。
- ④ 社会の不正義な構造の変革に参加すること。
- ⑤ 被造物の完全さを守り、地上の命を保持し、新たにするために努力すること。

(本文は、2018年に京都教区の教区報「つのぶえ」に5回に分けて連載した文書を加筆・修正したものです)

司祭 バルナバ 永野拓也

### CLCの駐車場利用について

以下の条件で、教会裏の駐車場を来客用として利用していただくことになりました。ご協力よろしく願います。

- ・駐車台数 1 台
  - ・用途 来客用駐車場
  - ・場所 裏の道路側白線枠の部分
  - ・時間 基本 9 時 30 分～18 時 30 分
  - ・基本、火曜、日曜、祝日の利用は無し
- ※教会行事が優先。変更がある場合はお伝えします。